

■平成 23 年度 第二期 (8/22~9/2) インターンシップ技術講習生のつぶやき

技術講習生のプロフィール	技術講習で体験したこと、感じたこと	今後の抱負など
<p>①安西那緒 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 3年</p> 	<p>・茨城県笠間市M地区において現地調査を行い、農工研が開発した GIS ソフト (VIMS) で当該地区の生産環境等の情報を整理し、耕作放棄地の発生の原因と今後の予測を行った。調査データを追加し、住民の意見もデータに加え、もう少し突っ込んだ分析にしたかった。</p>	<p>・調査と分析の作業は、地味で単調な側面がありながらも、データに向き合い思考し、そこから物事の本質を抽出するという研究者に必要な能力を知ることができた。その能力が自分にあるかを見つめながら、自分の将来を考えていきたい。</p>
<p>②岩本晃嗣 九州大学 農学部 地域環境工学科 3年</p> 	<p>・実習内容は同上。大学の授業と違い、特定の問題を深掘りして考え、自分なりの考えをまとめるという作業は慣れておらず辛かった。しかし、助言を受け、現地調査を通じて現場を見つめるうちに、集落の現状と将来について少しずつ自分なりの考えがまとまっていった。</p>	<p>・GIS の利用技術を学ぶことができ得をした。 ・これまでは正解か不正解かを考えることを求められ、また、インターネットで予備知識を得てから考える習慣が身につけていたが、正解がない問いの答えを探すという作業を経験でき、とても貴重な時間だった。</p>
<p>③匿名希望 筑波大学 生物資源学類 環境工学コース 3年</p> 	<p>・セメントペーストの温度と流動性の関係、屋外調査。 ・コンクリートは身近にあるのに、どんな材料で、どのようにつくのか知らなかった。実習内容を理解できるか不安だったが、実験データをグラフ化し、説明を受けて、データの意味が納得でき達成感が得られた。</p>	<p>・屋外実習中に、地元の方からいろいろ声をかけられた。その中でも「放射能測定ですか」が一番多かった。他にも、後継者がいない、米価下落の影響など、白書に記述されているような農業者の不安を生々の声で聞くことができ良い経験になった。</p>
<p>④財津卓弥 東京大学 農学部 3年</p> 	<p>・実習内容は同上。 ・セメントで手が荒れたり、実験作業の繰り返しで始めは馴染めなかったが、屋外調査で、目地間変位や硬度測定を行い、また、研究成果の適用現場を見て、研究室と現場の距離が近いことに興味を持った。</p>	<p>・大学で農業工学を学んでいく大きなモチベーションが得られ、また、将来の進路について考えるきっかけを掴むことができ、内容の濃い充実した期間だった。 ・全国から集まった二期の実習生と交流し、普段の大学生活では得られない楽しい思い出ができた。</p>
<p>⑤青山未佳 岡山大学 環境理工学部 環境理工学科 3年</p> 	<p>・実習内容は同上。 ・実験作業は手際よさや工夫が求められ集中力が必要だった。作業仮説が概ね検証されるなど、面白く興味を持って取り組むことができた。プロペラ流速計しか使ったことが無く、電磁流速計の仕組みに驚き感動した。</p>	<p>・大学での実験は多人数ということも手伝い、動く人と動かない人に分かれるが、実習生 3 人がそれぞれ率先して仕事を見つけ、効率的に仕事をこなした。その作業を通じて、仲間から学べる点も見つかった。今後の実験や大学生活で活かしていきたいと思う。</p>
<p>⑥大鷲良実 岩手大学 農学部 共生環境課程 3年</p> 	<p>・揚水水車の性能試験。 ・水理模型実験は慣れていなかったのははじめは戸惑ったが、研修仲間と協力し、水車に取り付けた筒の角度と水路の流量を変化させて、揚水効率を評価することができた。</p>	<p>・実験結果の発表会の準備をしてみて、自分の考察が甘いことが分かって焦りました。発表をもっとうまく要領よくできるようになりたい。 ・実習仲間とも打ち解けて有意義で楽しい実習だった。</p>

<p>⑦諏訪弘明 山形大学 農学部 生物環境学科 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容は同上。</li> <li>・作業仮説を決め実験を行った。指導いただいた研究担当の方々を前に、中間発表会、最終発表会を行い、水車の知識だけでなく、発表方法や考察の仕方についても学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの実習生との交流や研究担当の方々の話を聞く機会にも恵まれ学ぶことが多い期間だった。</li> <li>・就活や卒業論文に臨む前に、いろいろな意見に触れ、将来について考え、自分と向き合うことができた。学んだことを忘れず、残りの学生生活を過ごしていきたい。</li> </ul>
<p>⑧山埜拓人 東京大学 農学部 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容は同上。</li> <li>・日々新たな実験結果が得られていく測定作業はとても楽しい経験であり、研修仲間2人と議論し考察する作業を通じ、研究の実務に参加しているという責任感も芽生え、実験意欲が湧いていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験のまとめの発表を行い、研究担当の方から考察の不十分さを指摘され、研究の難しさを実感したが、お褒めの言葉もいただき、達成感と充実感も味わえた。</li> <li>・実習のお陰で、人生における視野が広がり、自分の将来像が定まったように思う。</li> </ul>
<p>⑨加藤雅征 北里大学 獣医学部 生物環境科学科 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系に配慮した施設構造を評価するため、生物を使用した模型実験。</li> <li>・大学で学んでいることに関連した実習だったので、勉強してきたことが深く理解でき、知識として吸収することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶことに役立て、卒業後の進路選択を考えるという目的で実習に臨んだ。研究実務を経験し、研究者の指導を受けることができ、得るものが大きかった。</li> <li>・実習中に、自分の弱点、短所、長所に気づくと共に、これから何を勉強していけばよいかが見つかった。</li> </ul>
<p>⑩江端南幾進 愛媛大学 農学部 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容は同上。</li> <li>・生態系に配慮した施設整備の必要性について問われ、返答に窮した。それは感覚的に分かっているつもりだったが、それを他の人に理解してもらおう言葉に置き換える努力を怠っていたことに気づいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の水田の歴史は長く、水田において豊かな生態系が育まれてきた。これを壊す権利は誰にもなく、次の世代に残していくことが私たちの責務であり、生態系配慮は農業基盤の整備には欠くことができない技術であると考えるようになった。</li> </ul>
<p>⑪匿名希望 日本大学 生物資源学類 環境工学コース 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土質実験</li> <li>・土粒子の密度試験、沈降分析、試料のふるい分け作業をひたすらこなした。その中でも密度試験には多くの時間を割り、手順と要領を覚えて作業能力は向上したが、慣れが災いして数値誤差がでた時は気を引き締めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の実習で、仕事とはどういうものを味わうことができ、とても良い機会となった。また、実習生仲間との交流も楽しい思い出となった。この体験を、今後の学生生活や就活に活かしていきたい。</li> </ul>
<p>⑫成高大翼 愛媛大学農学部 生物資源学科 地域環境工学コース 3年</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土質実験</li> <li>・種々の場所から採取された多数のサンプルの粒度分布、含水比などの試験を黙々とこなした。ちょっとしたミスでも始めからやり直す必要がある精度の高い根気のいる作業だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地味な作業ではあったが、このようにして得られた解析結果が、防災に、また、私たちの生活基盤の存立に役立つと思い、やりがいを感じた。研究業務にふれ、多くの友人と交流し、内容の濃い2週間だった。学んだこと、感じたことをこれからの大学生活に活かしていきたい。</li> </ul>

○農村工学研究所は、皆さんが社会に巣立ってからもお付き合いしたいと願っています。